

安芸市江川・内原野地区 地域農業の未来を考える集落座談会（1回目まとめ）

1. 実施日時：令和6年9月18日（水）14:00～15:45

2. 実施場所：安芸市立江川公民館ホール（安芸市川北乙587番地）

3. 参加者：地域の担い手等（5名）
JA高知県安芸営農経済センター等（2名）
高知県安芸農業振興センター（2名）
安芸市農業委員会（1名）
安芸市農林課（1名）

計11名

4. テーマ：「江川・内原野地区が目指す農業の将来像」

5. 会議録（参加者からの意見）

①地域農業の現状及び課題

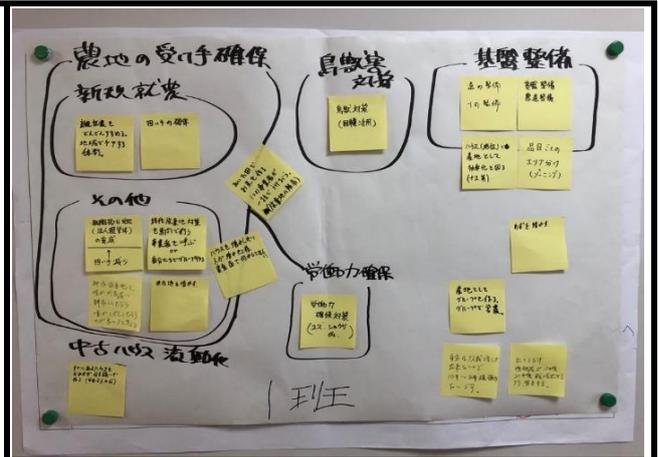
- ・当地区は小さい細切れの農地が多く、道も軽トラがギリギリほどで狭い。
- ・地区内には空きハウスがない。資材高騰でハウス新設も厳しい状況。
- ・有機農業に取り組む農家はほとんどいない。
- ・稲作は機械が高額で、故障を機に耕作をやめて放棄地となるケースが多い。
- ・放棄地になるには耕作条件が悪い等、それなりの理由がある。
- ・現状維持を望む家族経営体も多い。経費を削減して利益を増やす取組が重要。
- ・一方で農業資材も高騰しており、経費削減にも限界がある。合わせて収入を増やす取組も必要。
- ・柚子、ショウガなどの労働力確保対策も必要。
- ・地域としていつまでも安心して耕作できる環境を整えたい。

②課題解決に向けた取組

- ・効率的な農業ができるよう基盤整備を行い、農地を集約化していく。
- ・国が耕作放棄地を買い上げて広い農地にして耕作者に貸し付ける。
- ・地域や関係機関等が連携して新規就農者や意欲ある担い手をサポートする。
- ・大規模な経営体や法人に休耕田を担ってもらう。
- ・地域で若手グループをつくり、協力し合って地域農業を維持していく。
- ・休耕田では品目転換等を検討して安定した収入を確保する。（米→柚子など）
- ・意欲ある担い手が規模拡大できるよう資金面の支援を拡充する。
- ・法人経営体など組織的な受け皿を育成し、離農を検討する人を当該法人が雇用することで、農業従事者が生涯現役でいられる地域にする。
- ・国事業を活用した有害鳥獣対策を推進する。

【座談会の様子】

《第1班》



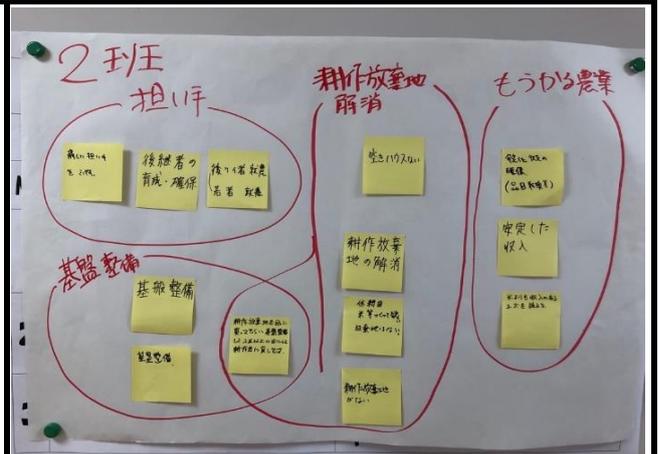
テーマ 江川内原野地区が目指す農業の採束像		
第1班		
No.	こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1	効率的な農業ができる地域にする。	基盤整備(ほ場農道、川水路) → 品目へのリサーチ、整備の護耕
2	耕作放棄地をなくす。	地域や関係機関等が連携し新規就農者を意欲のある担い手をサポートする
3	現在の品目構成(水稲、施設野菜)を維持できる地域にする。	若手のグループをつくり、協力し合い地域農業を維持し、任組みを促す。



■班内で出された意見■

- ・担い手確保に向けた新規就農を推進するため、行政や地域でケアする体制強化が必要。
- ・意欲ある担い手が規模拡大できるような資金面の支援を拡充してほしい。
- ・担い手対策として、法人経営体など組織的な受け皿を育成する。
- ・稲作は機械が高額で故障を機に耕作をやめるケースが多い。
- ・広い農地でないとやがて引き受けてくれる人もいなくなる。
- ・地域でグループをつくってグループ単位で営農する。
- ・個人経営で離農を検討する人を法人が雇用し、生涯現役でいられる地域にする。
- ・耕作放棄地を一元的に担う事業者もしくは新たな集落営農組織に管理を任せる。
- ・国事業を活用した有害鳥獣対策を推進する。
- ・耕作放棄地にはそうなる理由がある。この地区でも狭い農地が多く道も狭い。基盤整備により耕作しやすく効率的な農地を増やすことが重要。
- ・施設園芸の一大産地として省力化や効率化を追求していく。
- ・休耕田では柚子等への品目転換を検討する。その際は品目毎のゾーニングをしっかりと行う。
- ・柚子、ショウガなどの労働力確保対策も必要。
- ・地域としていつまでも安心して耕作できる環境を整えたい。

《第2班》



テーマ 江川内原野地区が目指す農業の将来像	
第2班	
No. こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1 耕作放棄地の解消	・放棄地を国に買い上げ、2反以上の田にして、耕作者に貸し出す
2 基盤整備	・個人の農地を集約して効率的な農地へ
3 もうかる農業	・安定した収入 ・担い手の確保・育成 ・収入のあるコブを植える



■班内で出された意見■

- ・ 基盤整備を望む声が多い。小さい細切れの農地が多く、道も軽トラがギリギリで狭い。
- ・ 耕作放棄地は国が買い上げ、広い農地（最低2反以上）にして耕作者に貸し付ける。
- ・ 後継者となる新たな担い手の確保が必要。地域内だけではなく、地域外からも担い手を受け入れる必要がある。
- ・ 地区内には空きハウスがない。資材高騰でハウス新設も厳しい状況。
- ・ 大規模な経営体や法人に休耕田で稲作を担ってもらいたい。
- ・ 休耕田では、米よりも収益性が高い柚子を栽培してはどうか。
- ・ 品目転換等を検討して安定した収入を確保する。
- ・ 安定した収入で儲かる農業になれば担い手も集まってくる。
- ・ 有機農業に取り組む農家はほとんどいない。（稲作で無農薬栽培に取り組む農家1戸あり）